

年 組 名前：

【 記事を、先生や
家族に読んで
もらうか、

自分で読んだ後に、
答えてください 】

伝統の徒歩鵜 始まる 笛吹川

笛吹市の夏の風物詩「笛吹川石和鵜飼」（市観光物産連盟主催）が20日、同市石和町市部の笛吹川で始まった。市観光物産連盟によると、笛吹川の鵜飼いは、鵜匠が舟に乗らず川の中を歩いて鵜を操る「徒歩鵜」と呼ばれる。伝統漁法。全国11カ所で鵜飼いは行われているが、徒歩鵜は笛吹川のみ。20日は死んだ鵜を供養した後、保存会の鵜匠が漁服を着て川に入り、かがり火で川面を照らしながらアユを誘った。首に綱を付けた鵜を放し、アユを捕まえると、河川敷の観光客から拍手が湧いた。笛吹川石和鵜飼いは8月19日までの水、木、土、日曜日の午後8時から8時50分まで行い、午後9時までの10分間は花火を打ち上げる。石和温泉花火大会が行われる8月13日は午後8時半まで。鵜飼納めとして、金曜日の8月19日も開催する。



スマホで動画 MOVIE 川の中を歩いて鵜を操る鵜匠—笛吹市石和町市部（撮影・広瀬徹）

(2022年7月21日付 山梨日日新聞 21面)

問1

笛吹川の鵜飼いは、ほかの鵜飼いとちがいます。どのようにちがいますか。

.....

問2

なぜ鮎は、鵜匠に近づいてくると思いますか。

.....

問3

「夏の風物詩」と言えば、あなたは何を思い出しますか。

.....